

# にのみやまちとしょかん 図書館だより

2007.7.15 発行

(奇数月 15 日発行)

第 28 号



特集

## 世界 S F 大会

S F ファンには「ワールドコン」として知られる「世界 S F 大会 (World Science Fiction Convention) Nippon2007」というイベントが、この夏横浜で開催されます。1939 年にニューヨークで始まったこの大会は今年で 65 回目を迎えますが、そのほとんどがアメリカで開かれており、今回初めてアジアでの開催となります。その日本誘致活動に尽力され、大会顧問などとして活躍されているのが二宮町在住の柴野拓美氏です。

今回の特集では、日本の S F 界を代表する「顔」である柴野氏と深くかかわりのある世界 S F 大会について紹介します。(柴野拓美氏の詳しいプロフィールは、図書館だより第 17 号 (2005.9 月号) の特集「二宮ゆかりの人物特別編」をご覧ください。)

### 世界 S F 大会 (ワールドコン) とは

世界中の S F ファンが集う、年に一度の大規模な交流の場です。例年米国の勤労感謝の日にあたる Labor Day の週末である 8 月末から 9 月初頭の 5 日間開催されます。ここ数年のアメリカ開催での参加者は、一日平均 5,000 人前後という大イベントです。第一回ニューヨーク大会の「ナイコン (NY-CON)」以来、開催地によって「コン (convention の略)」と呼ぶのが習わしとなっています。参加者は、ワールドコンの期間内に行われるいろいろな企画を楽しむだけでなく、ビジネスミーティングに出席したり、様々な議題を決議する際に一票を投じる事ができます。また、2 年後のワールドコン開催地を決める投票権と、S F 界では最も有名な賞であるヒューゴー賞を決める投票権も有しています。

### 大会の主な内容

大会の主な内容としては、作家、科学者、映画関係者など様々な分野の専門家をパネラーに迎えるパネルディスカッションや講演、作品の世界観などを話し合う座談会、ゲーム、クラフト講座、ダンスなどのワークショップ、映像作品の上映、SF の歴史などの展示、アーティストたちの作品を展示販売するギャラリー、企業ブースのような商品の販売所など、何かしら SF に関連した 300 以上の企画が平行して行われています。これらすべては、ボランティアのスタッフにより運営されています。

写真提供：柴野拓美氏



2006 年 L.A. コン 4 の会場の様子

### 柴野拓美氏と世界 S F 大会

柴野拓美氏は、1968 年オークランドで開催された第 26 回ワールドコン (Baycon) に招待される形で、初めて世界 S F 大会に参加されました。1979 年のイギリス・ブライトンでの第 37 回ワールドコン (Seacon '79) には教員を退職後夫人とともに参加、その後 2001 年まではほぼ毎年参加され、日本とアメリカの S F ファンとの架け橋となりました。1984 年の L.A. コン 2 以降は、日本からも多くのファンが参加するようになっていきます。

今回のワールドコン日本開催にあたって柴野氏は、誘致活動の初期の段階から深くかかわられ、2000 年に結成された誘致委員会の顧問として尽力されました。大会中はファンゲストオブオナー (大会の主賓) として、まさに大会の顔として活躍されています。

また、今回のワールドコンと同時開催される日本 S F 大会も柴野氏が 1962 年に主催して始まった大会であり、今年で 46 回目を迎えます。1982 年からは、日本 S F ファンダム賞の趣旨を受け継ぐかたちで S F ファン活動を表彰する唯一の賞である柴野拓美賞を創設し、自ら受賞者を選出し、毎年日本 S F 大会席上で発表しています。

柴野氏が翻訳を手がけた『スモーク・リング』のカバーイラストは、今回大会のアーティストゲストオブオナーであるマイケル・ウィラン氏の作品です



日本人初のファンゲストオブオナーとしてご夫婦で招待された 1996 年 L.A. コン 3 での柴野氏。これまで参加したワールドコンのネームプレートに身に付けてのスピーチ。この日のことは「生涯で 4 回目の「最良の日」」と後に述べています。

参考資料：Nippon2007 ワールドコン ホームページ (<http://www.nippon2007.org/jpn/index.shtml>)、『塵も積もれば - 宇宙塵 40 年史 いつまでも前向きに 改訂版 (宇宙塵/2006/T 川)』、『スモーク・リング』(ライイ・ニーヴン著、小隅黎訳/早川書房/1988/T 川)

# 新しく入った本 CD DVD

2007年5～6月新着分より

(著編者 / 出版社 / 出版年月 / 請求記号)

本

画像  
なし

『みんなの「生きる」をデザインしよう』  
(菊地信義 / 白水社 / '07.3 / 022.5 ｷ)  
装幀家の著者が母校で教壇に立つ。子どもたちは谷川俊太郎の詩「生きる」を題材に、それぞれの「生きる」を考え、表紙をつくる。NHKの番組「課外授業ようこそ先輩」をもとに綴ったドキュメント。

画像  
なし

『大人のためのお稽古ごと入門』  
(杉山由美子 / 岩波書店 / '07.3 / 379.6 入)  
人生はどれだけ多くの人たちと深く心を通わせられるかだと説く著者。「お稽古ごと」というタイトルからは思いもかけない中高年への人生の指針や、後半生のヒントがいっぱい。

画像  
なし

『鎌倉スーベニール手帖 - ぼくの伯父さんのお土産散歩ブック -』  
(沼田元気 / 白夜書房 / '07.4 / TB291.37 又)  
鎌倉、江ノ島、葉山、三浦半島の観光、お土産、喫茶案内を、カラー写真で伝える旅のガイドブック。本を片手に、お気に入りの場所を見つけてみてはいかがでしょう。

画像  
なし

『人間自身 - 考えることに終わりなく Philosophical Essays』  
(池田晶子 / 新潮社 / '07.4 / 104 ｲ)  
純粹に思索し、その過程を日常の言葉で表現し続けた著者は、今年2月に急逝しました。もう新たな思索をたどることはできませんが、せめてこれまでの著作を深く味わいたいものです。

画像  
なし

『朗読日和 - すぐに役立つ 実践的朗読のススメ -』  
(長谷由子 / 彩流社 / '07.3 / 809.4 ㊦)  
カルチャーセンターなどで朗読を教える著者が、朗読の魅力や練習方法、作品の選び方を紹介。大事なことは、聴き手の心に届くように読むこと。感動を共有できる朗読とは？

画像  
なし

『作家の食卓』(コロナ・ブックス編集部 / 平凡社 / '05.7 / 910.2 ㊦)  
買い出しの大好きだった檀一雄、ハイカラな永井荷風の戦後の自炊生活などを紹介し、作家たちの家庭の味を再現。その他食いしん坊作家たちの人間くさいエピソードも満載です。

## 録音 CD

画像  
なし

『スタジオジブリ作品集 2』  
(カール・オルジェ・ピアノ・アンサンブル演奏 / 61分 / 230 ｶ 2)  
スタジオジブリ作品のカヴァーアルバム第2弾。ピアニストカール・オルジェを中心としたピアノ・アンサンブルが編曲・カヴァー。名曲の数々が心にしみわたります。

## 映像 DVD

画像  
なし

(演奏者、出演者 / 収録時間 / 請求記号)

『パペットマペットのサイエンスでしょ!?!』 (パペットマペット、尾辻舞〔ほか〕出演 / 110分 / 404 ㍑)  
現在もテレビ神奈川で放送中の番組のDVD化。パペットマペットのうしくん・カエルくんも出演。身近にある不思議なことや疑問を楽しく、分かりやすく解説してくれます。

## 展示テーブルから

7月の展示テーマ  
道具

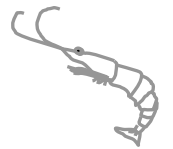
～暮らしを豊かにするもの。～

画像  
なし

今月の紹介本

『フライフィッシャーのための水生昆虫小宇宙 Part 1』  
(刈田敏 / つり人社 / '00.2 / 486.1 ㍑ 1)

ふう～ん



「海老」と「蝦」の違いは？

道そなに具そなわると書いて道具。もともとは、仏の道に入るために必要な衣や鉢などの器具の総称でした。普段使っている「道具」はもちろん、暮らしにかかわるものも「道具」と定義して本を集めてみました。

ご紹介する本は、釣りに使うフライと呼ばれる毛けぼり鉤かぎのモデルになる虫たちの生態を紹介しています。昔から日本で使われている毛鉤とは少し趣きが違うフライ。完成品が売られていますが、釣る魚の食性や生息環境によって釣り人自らがパターンを作り出し、魚との駆け引きを楽しむのがフライフィッシングの醍醐味。同じ虫をモデルにして作ったフライが、作る人によって色や形が違うのも奥が深く感じられます。

エビには「海老」と「蝦」の二通りの漢字がありますが、一般的に大きなエビのことを「海老」と書きます。水中での移動の仕方も「海老」と「蝦」では違います。「海老」は水底を歩き、「蝦」は水中を泳ぎます。そのため、本来伊勢エビは「海老」、桜エビや車エビは「蝦」という字が当てられます。



# 二宮町図書館 講演会開催

2007年9月17日(月・祝)  
午後2時～4時

ラディアンミーティングルーム2  
定員80人

## ふるさとと私

講師：新井恵美子氏  
あらい えみこ

二宮に隣接する小田原(前川)を題材に書かれた『わたしの小田原』の著者である新井恵美子氏に、「ふるさと」をテーマに語っていただきます。二宮、小田原の風土や歴史について、その魅力をたっぷりと味わってください。



新井恵美子氏の著書

**講師紹介：**エッセイスト、ノンフィクション作家。昭和14年(1939)東京生まれ。学習院大学文学部国文科中退。戦時中、父の郷里、小田原市前川に疎開。父は、雑誌「平凡」を創刊した岩堀喜之助。1963年『雨ふり草』で随筆サンケイ賞受賞。父のことを著した『腹いっぱい食うために』他多数のノンフィクションを手がける。1996年『モンテルパの夜明け』で第15回潮賞ノンフィクション部門優秀賞受賞。現在も雑誌「かながわ風土記」等に執筆し活躍中。

ふるさとの事や身近な題材を発掘しながら書き続けてきた作品は、読み手を作中にくいぐいと引き込んでいき、いつまでも心の奥に響きわたります。

申込み方法についてはp4をご覧ください

## ベストオーダー

2007年5月～6月

この期間に予約が多かった本です

### 【一般書 ベスト10】

- 1 鈍感力 / 渡辺淳一
- 2 まんまこと / 畠中恵
- 3 長野殺人事件 / 内田康夫
- 4 女性の品格 / 坂東真理子
- 5 林住期 / 五木寛之
- 6 一瞬の風になれ(全3巻) / 佐藤多佳子
- 7 ドリームバスター4 / 宮部みゆき
- 8 眉山 / さだまさし
- 9 東京タワー / リリー・フランキー
- 10 Gボーイズ冬戦争 / 石田衣良

### 【児童書 ベスト5】

- 1 デモナータ 4幕 バック
- 2 バッテリー (全6巻)
- 3 頭のうちどころが悪かった熊の話
- 4 黄金に輝く月
- 5 天と地の守り人 第2～3部

## 二宮ゆかりの人物

そうま みどり  
相馬 翠 (医師)

今回紹介する二宮ゆかりの人物は、二宮町で長く女医を務められた相馬翠さん(1911～2003)です。

相馬翠さんは、明治44年北米サンフランシスコで生まれ、帝国女子医学薬学専門学校医学科(現東邦医大)で医学を学び、昭和11年に知足寺の石段下に相馬医院(現横山医院)を開業し、多年にわたり地域医療に尽力されました。

昭和41年8月15日、翠さんが綴った戦時中の日記が毎日新聞の家庭面に「ある主婦の戦争記録 愛の日記は歳月を越えて」という見出しで掲載され、大きな反響を呼びました。それは文字通り夫婦愛、家族愛に満ちたものであり、また戦中戦後にかけての人々の生活の記録としての資料的価値も高いものでした。

太平洋戦争のさなかの昭和19年4月、38歳の夫正雄さんに召集令状が届きます。この日から夫の帰国の日まで、一日も欠かさず翠さんは日記を書き綴ります。「君が生命我が生命なりともどもに在りてこそなり生き抜かれたし」、これは出征した夫を思って翠さんが日記の中で詠んだ短歌です。

戦争はその後激しさを増し、昭和20年8月5日には高木(旧姓江井)敏子さんの『ガラスのうさぎ』に書かれた二宮駅での機銃掃射による悲劇が起こります。当時身体が弱かった高木さんのことを、翠さんはよく知っていました。その日の日記には「-中略-中島先生の方から応援依頼があったので、私はみねちゃんを残し、看護兵に自転車の後ろにのせて貰って行く。死者二人、そのままになっていた。そばに少女

が呆然としている。東京から疎開で来ている江井敏子さんだ。「敏子ちゃん、どうしたの？」声をかけると「お父さんが死んじやった」という。何て気の毒な子なんだろう。とうとう一人ぼっちになってしまった。可哀想。」と記されています。

この貴重な日記は『戦場は星空の彼方に 夫の生還祈る女医の日記』と題され、昭和55年毎日新聞社から刊行されました。全編を通じて妻の夫を想う心と、4人の子どもを育てながら多数の患者さんを診察し、その合間を縫って近在へ往診に回る医師としての姿に深い感銘を受けます。

昭和22年、シベリアから無事帰国された夫の正雄さんは知足寺の住職を務め、二宮保育園を開設して園長を続けながら町会議員などを歴任しました。翠さんも診療を続けるかたわら、町会議員や婦人会長などを務め地域に貢献しました。昭和48年に正雄さんが亡くなると、その遺志を継ぎ、約20年間、二宮保育園長の仕事にも励みました。

二宮町に大きな足跡を残された翠さんは平成15年2月22日、92歳で永眠されました。



『戦場は星空の彼方に』表紙

このコーナーでは、二宮にゆかりのある人物や文学作品等をご紹介します。ここで紹介された人物や作品関連の情報がありませんでしたら、図書館までお寄せください。

参考資料 『戦場は星空の彼方に 夫の生還祈る女医の日記』(相馬翠著/毎日新聞社[絶版]/1980/NY ソウ) 『めぐりあい-ガラスのうさぎと私』(高木敏子著/金の星社/1984/NY タカ) 『ガラスのうさぎ』(高木敏子著/金の星社/1979/NY タカ) 『二宮夜話-古稀記念』(山崎宗晴著/1972/N C8)

# お知らせ・お願い

7月4日から図書館内の利用者用検索端末がさらに便利になりました

- ・貸出中の資料に予約ができます
  - ・予約資料の確認・取消ができます
- 10月からはインターネットからも資料予約ができるようになります。  
くわしくは、館内掲示または図書館ホームページをご覧ください。

## 課題図書のお知らせ

<夏休み期間中(～9月上旬まで)の課題図書の貸出について>  
例年夏休み期間中に課題図書の利用が集中します。期間中、スムーズに利用されるよう以下のようにさせていただきますので、ご協力お願い致します。

貸出は一人につき一冊、一週間以内とします。  
原則として、課題図書として使用される小中高生の利用を優先します。  
配架場所は児童展示テーブルです。貸出中の場合は予約をしてください。戻り次第ご連絡します。  
連絡がありましたら、1～2日以内に借りに来てください。  
課題図書の予約は館内利用者用検索端末からはできません。カウンターへお申し込みください。

## 図書館内での飲食はできません!

特に夏の期間は飲み物の持ち込みが多くなりますが、図書館内での飲食は禁止しています。喫茶コーナーをご利用ください。



## 行事

くわしくはお問い合わせください。

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

休館日



第2水曜日(8月は第1水曜日)  
ちいちゃいおはなし会



第3土曜日  
おおきいおはなし会 小学生からおはなし会とありがとうあそび



第3金曜日(8月は第4金曜日)  
わらべうたであそぼう!



第4日曜日  
雑誌のリサイクルコーナー

## 展示テーマ

6月 | 一般 / 『沖縄』  
| 児童 / 『おうちおうちどんなおうち?』  
| A V / 『今年の夏はどこへ行く』

7月 | 一般 / 『道具 ～暮らしを豊かにするもの。～』  
| 児童 / 『課題図書&小中学生にすすめたい本』

## 特設展示

5月・・・『大庭みな子さんをしのんで』  
『藤原伊織さんをしのんで』

## 地域資料コーナー 展示ケース

7月～9月・・・『二宮ゆかりの人物 梅田晴夫』

## 書庫の本紹介コーナー

7月～9月・・・『戦後30年(S21～S50)のベストセラー小説』

## 利用者の声 Q&A

Q: どうして新聞や雑誌が減ったのですか?

A: 平成19年度の予算規模の縮小により、やむを得ず多数の新聞雑誌を購読中止にいたしました。継続する雑誌の決定は、利用頻度の多いもの、分野のバランスを考慮し、新聞は大手新聞の他、各ジャンルから1紙ずつ購読を決定しました。なお、図書館に所蔵のない雑誌のお取り寄せは、職員におたずねください。

## こどもえいがかい

「ライオンを探せ!」(日本語吹き替え版)  
ライオンの父と息子の絆を描いた感動アドベンチャー

日時: 8月8日(水)

場所: ラディアンホール 開場: 午後1時30分

開演: 午後2時(3時45分終了予定)

入場無料、申込み不要です。直接会場にお越しください。ただし満席になり次第入場を締め切ります。

## 二宮町図書館講演会

「ふるさとと私」

講師: 新井恵美子氏(ノンフィクション作家)

日時: 9月17日(月・祝) 午後2時～4時

会場: 生涯学習センターラディアン

ミーティングルーム2

定員: 80人(入場無料)

《お申し込み》

8月1日(水) 9時30分から電話または図書館(1階カウンター)で受け付けます。先着順で定員になり次第終了。

## ひとつだけ ～編集後記にかえて

五木寛之氏の著書『林住期』に、古代インドでは人生を「学生期」「家住期」「林住期」「遊行期」の4つに分けて考えたとある。「林住期」とは、社会人としての努めを終えたあと、すべての人が迎える最も輝かしい「第3の人生」のこと。あるテレビ番組の『林住期』についての対談で彼は、「人生を山にたとえると無事に下山してはじめて登山。登ったあと下りてくる時に優雅に安全に下りてくる。これが林住の醍醐味。」とも言っていた。はたして自分はゆっくりと楽しみながら下りてくることのできるのだろうか。

編集・発行 二宮町図書館

住所 二宮町二宮1240-10

☎ 0463-72-6913

ホームページ <http://www.ninomiya-public-library.jp/>

☎ 図書館だよりテープ版もあります! お問い合わせください。

